

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：グループホーム やすらぎの里

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370700288		
法人名	社会福祉法人門前保育会		
事業所名	グループホームやすらぎの里		
所在地	岩手県久慈市新中の橋第4地割12番地2		
自己評価作成日	平成29年09月01日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou.detail.2017.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0370700288-00&Pr.efCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成29年9月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ法人の保育園があり、園児とのふれあいや園児の様子を近くで見ることが出来る。 ・調理、掃除、買い物、ごみ出しなど、利用者様の能力に合わせて一緒に行っている。 ・利用者様一人ひとりの希望やご家族様の希望に添った支援を行っている。 ・利用者様の笑顔を1日1回は見られるよう支援している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、医療機関や市民体育館、食品スーパーが近接し、住宅に囲まれるなど生活環境が整った場所に設置されている。また、法人の保育園が敷地内に併設され、行事の共同開催や日常的な交流のを通じ、利用者との触れ合いを大切に支援に努めている。さらに、日頃の散歩や買い物、畑仕事などの外出時の地域住民との声掛け合いのほか、地域の行事への参加などを通じて、避難訓練時の利用者の見守りや水害時の避難誘導など、地域住民の協力、支援を受けながら、地域に根ざした運営を行なっている。運営にあたっては、家族との面会時の話し合いや日々の生活の中で利用者の意向を把握し、外出や食事など希望に沿った対応のほか、利用者の出来る能力を活かし、行動様式を注意深く見守り、自立を助長するため、一人ひとりの状況に対応したきめ細かな支援を行なっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・「職員が入所したい施設」を理念としている ・朝の申し送り時職員で復唱し、共通認識し、利用者様の意向をくみ取れるよう日々の生活を支援している。	事業所の運営方針に基づき、職員で話し合い、「利用者の希望に沿った支援を行なうこと」を理念と定め、毎朝の唱和を行なうなど、職員間で確認しサービスの提供に努めている。特に、利用者の意向や心情を大切に「地域に愛され、地域と共に育む」保育園との行事参加を通じて、園児や家族との触れ合いを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・買い物。散歩の時等職員から積極的に地域の方に挨拶を行う。 ・施設の畑等一緒に作業したり、収穫した物を交換など行っている。	日頃の外出や買い物、畑作業などでの地域住民との声掛けや、保育園の各種行事に参加することにより、園児の家族や地域住民との交流が促進され、事業所の理解が進み、地域の一員として認知され、様々な協力、支援を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・相談された時には、分かる範囲で答えている。 ・福祉体験等を受け入れ、認知症理解につなげる ・床屋・タクシー等を利用した際、気をつける点等伝え、少しずつ理解が広がっていると感じる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・職員が交代で参加することにより、職員の意識改革につながる。 ・毎月の広報誌により取り組み状況を報告。意見交換などで様々な意見がでるため、勉強になる。	市職員、地域住民代表(区長)、民生委員、社協関係者、家族代表の参加を得ている。家族アンケート実施を促す意見のほか、災害対策の提言を受けマニュアルの作成に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・推進会議メンバーに市役所の職員も含まれているため、情報のやり取りが出来る。 ・なるべく足を運ぶことで、顔見知りの関係作りを心掛けている。	事業所で作成の広報を毎月、市に提供し事業所の状況を報告しているほか、市主催の介護制度の説明会や老人福祉の研修会にも参加している。また、家族の要請を受けた諸手続代行の機会にも様々な指導、助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・日中の玄関の施錠はしていない。いつでも自由に外に出かけられる環境にしている。 ・身体拘束は行っていない。 ・日中はオムツをつけない支援を心掛けている。	玄関は開け放れており、何時でも自由に外に出れるようになっている。身体拘束のセンサーなどの設置はなく、言葉遣いなどにも留意し、身体拘束しない介護への配慮をしている。他事業所での身体拘束の事案などの情報や話題を提供し、職員の意識の喚起にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・言葉遣い、行動等で気になるような時には、職員間で注意し合っている。 ・改善が見込まれない時には、上司に報告。上司より指導を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・成年後見人制度を利用している方はいない。 ・必要に応じて説明、紹介している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に説明している。疑問点・不安点についてはその都度回答している。 ・改定等の時には、お手紙等で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を設置しているが、意見要望が入ったことがない。 ・利用者の「出掛けたい」はなるべく実現できるよう配慮している。(買い物・床屋・散歩)	日々の生活の中で、利用者の意向を把握し、希望に沿い、外出や買い物などに出かけている。また、家族に毎月機関紙「けやぐ」を配布するほか、一人ひとりの「最近の様子」をとりまとめて提供するなど、意見、要望に沿ってきめ細やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・業務会議等で話したり、勤務外に上司に相談している。 ・会議や申し送りで機会があるため、意見を言いやすい環境にある。	毎月、定例の職員会議を開催し、利用者担当ごとの報告のほか、職員の意見や提案を受けて、勤務時間、体制の変更など業務の改善に繋げている。また、他のグループホーム職員との交流会の提案があり、実現に向けて進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・研修会等希望すると参加できる。 ・資格取得のための講習会等には休暇を配慮してくれる。 ・勤務内容等は職員で話し合い働きやすい環境づくりに取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々にあった研修会への参加を薦めている。 ・色々な研修会に参加できる機会を与えてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・交換研修を行うことで、他施設との交流を図っている。 ・昨年度は、管内のGH職員で忘年会を行い、交流を図った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前調査を実施。他のサービスを利用した方は、ケアマネやサービス業者から情報を頂、在宅生活の延長でサービス提供が出来るよう配慮している。 ・1対1での会話を心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・入所前の事前調査等で家族の意向を確認している。 ・家族が、利用者に対してどのような生活を送ってほしいのか等を確認している。 ・手紙等で生活の様子を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・出来る限り、前の生活と同じようなリズムで生活できるよう対応している。 ・相談しながら支援内容を変更している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・出来ることを一緒に行うことで、お互い様の関係を築いている。 ・料理の作り方、畑作業の仕方等、聞きながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・月1回の広報誌と、月1回個々の生活の様子を報告している。 ・病院受診は基本ご家族とし、出来る限り、利用者様との距離が離れないよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・在宅時利用していた床屋・美容院にタクシーで出かけたたり、馴染みの店員のいるお店に買い物に出かける。 ・地域交流の意味も町内の理容店なども利用している。	馴染みの床屋や美容院に出かけるほか、買い物にも出かけている。保育園のお祭り、マジックの見学、バザーでの家族との交流なども実施している。高校の文化祭や中学校の発表会にも出かけている。友人、親戚、近所の方の訪問もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・仲良しグループで活動している利用者様もいる。 ・なかなか、周囲と協調出来ない方もあるが、職員が話をすることで、柔和な雰囲気を作るよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退所後、施設に面会に行くことがある。 ・退所後のご家族様から紹介を受けて申し込みに来られる方もある。 ・相談等があれば対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・自分の希望や意向をはっきりと言えない方が多いため、普段の会話の中から意向をくみ取るようにしている。	日々の生活の中で、利用者の意向を把握し、買い物、散歩、中庭の花壇の整備のほか、生花の購入、塗り絵、俳句の実施などの趣味にも対応している。畑の作業は、利用者、職員、地域の方の協力により、季節の野菜を栽培し、事業所の食材にも活用している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所時にご家族やサービス業者。ケアマネ等から情報を集めている。 ・入所後は会話の中から、情報収集するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・毎朝のバイタルチェック、顔色、体調等を伺っている。 ・普段の様子と違う時には職員間で情報を共有し状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・定期的にモニタリングやプラン変更を行っている。 ・状態が変化した時にはご家族やご本人と話し合いプラン変更している。 ・業務会議で利用者様の状態を確認している。	居室担当による状況報告のほか、モニタリングや担当者会議を経て原案を作成し、回覧により職員意見を募り家族の面談や電話確認で修正を加え、計画を作成している。特に、医師の指示に対応するほか、利用者の自立の支援に配慮している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録に詳しく記入するよう心掛けている。 ・共通理解の必要なものは、連絡ノートに記入情報を共有している。 ・業務会議で話し合いプランに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・利用者の「やってみたい」の声を実践できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・市民体育館にイベント見学。 ・ドラッグストア等に化粧品を購入に出かける。 ・美容院にタクシーで出かける。 ・図書館等に出かける。など 		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・受診対応はご家族にお願いしている。 ・受診時情報提供を作成している。 ・状態に変化が見られたとき、急変時等は職員同行にて医師の指示を仰ぐ。 	全員が入居時のかかりつけ医で受診しており、家族同伴が原則である。家族の要請により職員が同行する場合もある。医師への連絡表や医師からの指示は、家族に託している。精神科などの専門科の受診や歯科の往診もある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・同法人の看護師に相談 ・かかりつけ医に連絡し、看護師、医師より助言を頂く。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・入院時、病院へのサマリーを提供。 ・定期的に家族から状況を確認。 ・退院時には、家族と一緒に医師より説明を受け、今後の支援につなげる。 ・支障のない方は面会に行き様子を確認している。 		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時、看取りを行っていないことを説明する。 ・状態が変化している場合は、その都度ご家族に説明し、次の支援につながるよう配慮している。 ・サービス継続が難しくなった場合には、施設で提供できるサービスの範囲を説明し、了解を得たうえで、サービス継続を行っている。 	重度化した場合は、家族の意向を伺い、かかりつけ医や協力医の指示を受け、県立病院へ緊急搬送することとしている。看取りについては、入居時に家族や利用者に対応しないことを説明し、了承を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練、通報訓練の実施。 ・非常ベル等の装置、使用方法を確認 ・防火管理者講習会の受講 ・AED講習会等に参加 		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> ・火災通報訓練時には、近所の方も協力して下さる。 ・昨年度の水害時には、近所の方の協力により、スムーズに避難場所に移動出来た。 	避難訓練等は、保育園と共同で実施した。非常通報は、消防署のほか、ご近所の地域住民2名にも伝わり、訓練の際に協力を得ている。また、水害等に対しては、近所の方の避難誘導支援を得ている。定期的な訓練の実施と日頃の近所との意思の疎通に心がけている。	新たに作成された「災害時対応マニュアル(夜間火災想定)」による訓練の実施を期待したい。また、備蓄食材の更新を配慮願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> 入室時には必ず許可を得てから入室している。 排泄等の確認は小さな声で行っている。 個々に合わせた声掛けを行っている。 男性職員特に威圧的にならないよう気を付けている。 	<p>個人情報、一人ごとにファイルし、事務室で管理している。訪問カードは個別に記入し、他者の目に届かないようしている。広報紙への写真掲載、自宅周辺の訪問は、家族の意向に配慮している。異性の排泄、入浴介助は、利用者の意向に沿って対応している。特に、排泄誘導の際の声掛けには十分配慮している。</p>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> 自分の言葉で話せるよう配慮している。 自己決定が難しくなってきた方には、選択出来る様配慮している。 問いかけ、質問方式で話を行い、決めつけた言い方はしないよう心掛けている。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の声を優先するようにはしているが、他者と希望がぶつかった時には、同時にとはいかない時もある。 一人の時間を好む方には、タイミングをみて他者との交流が計れるよう配慮している。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 個人に任せている。 目的を伝え、目的に合った服装が出来る様にしている。 着込む方には、こちらで調整する事もある。 化粧希望時には行っている。 		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> 配膳、下膳はそれぞれで行っている。 ホームから収穫して物を提供時に伝えると喜ばれる。 メニューに希望を取り入れている。 一緒に作り、盛り付け、片付等行っている。 	<p>週3回の食材の買出しに、利用者が同行し、希望の食材を入手している。利用者は、調理の手助けや盛り付け、配膳、食器洗いなど全般に渡って、食事に関わっている。季節の山菜、ホヤやひつつみ、ハットなどの郷土料理のほか、保育園での流しソーメン、誕生日には外食しケーキも提供している。</p>	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> 食事形態は個々に合わせて行っている。 必要な方には水分チェックを行いながら実施。 開所時、栄養士が作成した献立を基に職員が作成している。 		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	<ul style="list-style-type: none"> 毎食後、歯磨きを実施。 不十分な方には、夕食後職員が介助し、口腔内に食渣が残らないようにしている。 		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅中リハビリパンツを利用の方でも、布パンツ可能と判断すれば、家族と相談し、変更をかけていく。(夜間も同様) ・失禁の多い方は、排泄パターンを把握し、集中ケアをする事によって、失禁回数を減らしている。 	利用者ごとの排泄パターンを記録し、それとなく誘導している。全員が入居時のリハビリパンツから布パンツ使用へ改善している。なお、パットと合わせての利用者少数である。ポータブルトイレは、利用者1名の希望により利用している。介助は見守り程度とし、利用者によるズボンの上げ下げなど、自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・運動・水分を中心としているが、下剤使用の方も、個々の排泄パターンによって、服薬する時間帯を工夫している。 		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴日は週2回と決まっているが、時間帯希望時間に入っている。 ・時期によってはシャワー浴・足浴等の希望を取り入れている。 	週2回、月、木の8時30分から15時の間に、入浴している。洗髪は介助し、洗身については利用者とし、利用者の能力を活かして、自立支援している。散歩、畑作業で汗をかいた場合は、シャワーで対応している。季節の菖蒲、ゆず湯ほか、誕生日には温泉に出かけている。入浴拒否者には朝湯を勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・午睡は夜間に響かないよう30分~1時間程度で起こしている。 ・日中のなるべく散歩等を行い屋外に出る様配慮している。 ・天気の良い日には布団を干しを行う。 		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用者一人一人の服用回数を把握するようにしている。(服薬は2名で確認) ・臨時薬には印をつけて、飲み忘れのないようにしている。 ・変更になった時には状態観察時医師に報告 		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じて、対応している。 ・好きな飲み物、おやつ等を個々に購入している方もいる。 ・役割をもって動いている方もいる 		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・誕生日には本人の行きたいところに出かけている。(温泉、買い物、なじみの店等) ・家族の協力が得られれば、外泊等を行っている。 ・衣類の不足している者等も利用者と一緒に購入している。 	天気の良い日は、周辺の散歩に出かけることにしているほか、スーパー、本屋への買い物に出かけている。なお、隣接の保育園のベンチで休息したり、庭や園の中に入り込んで園児と交流している。家族同伴のドライブで高原を散策し、手打ちそばを食べたほか、盆、正月時の外泊もある。学校行事の見学や花見などにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の能力に応じて対応している。買い物、訪問販売等で、好きな物を購入できるようにしている。 ・お札がなくなると不安な方には小銭をお札と交換もしている。 		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・電話はご家族の了解が得られている方は、自由に行っているが、そうでない方は、内線等を利用し対応している。 ・手紙が届いた時には返事を書くように心がけている。 		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・中庭に季節の花を植えるなど環境を作りをしている。 ・長椅子やベンチを利用し、利用者同士談笑する様子が見られる。 ・窓の多い環境の為、施設内は外の様子を感じやすい 	中庭を囲んだ周回出来る廊下添いに居室、食堂、事務室等が配置されている。建物は無垢の木材を利用し、明るい光が部屋を照らし、蓄熱暖房機で温度管理され、温かみのある事業所となっている。廊下に設置されたベンチやソファ、食堂のテーブルなど、それぞれの場所でくつろいでいる。利用者の作品や鉢植えが配置され、暮らしやすい快適な生活環境となっている	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・長椅子、ベンチを利用し、仲間と一緒に。一人でゆっくり。とそれぞれの時間を過ごしている。 		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・入所時、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。 ・入所後は、本人からの希望があれば、家族と相談し、居室環境を作り上げている。 ・配置等も本人の希望で動かしている。 	洋室、和室とも洗面台、押入れ、タンスが設置され、ベッド、フタンのほか、テレビ、ラジオ、テーブル、冷蔵庫、家族写真、化粧品などが、持ち込まれており、それぞれの希望に添った配置となっている。蓄熱暖房機で温度管理され、和室の利用者は冬期間のコタツ使用者もいる。落ち着いた雰囲気のある居室となっている	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレ表示など場所がわかるようにしている。 ・自室や下駄箱等表札ではなく、目印をつけ自分の物が分かるようにしている。」 		